

第1学年 国語科学習指導案

日時 平成20年10月10日(金)
児童 男子3名 女子10名 計13名
指導者 鈴木 聡

- 1 単元名 こえに だして よもう
教材名 「くじらぐも」

- 2 子どもの実態

子どもたちはこれまでひらがなを学習し、濁音、促音が読めるようになり、似たような言葉の区別ができるようになってきている。また、「はなのみち」「おむすびころりん」「大きなかぶ」の物語文に出会い、場面の様子を想像しながら読み、登場人物の気持ちになって読むことを楽しんできた。「いろいろなくちばし」では、挿絵と写真を手がかりに説明の順序や内容を考えながら、説明文の大体を読み取ることができた。

また音読については、「はっきりとした発音で読むこと」「拾い読みをせず、語や文として読むこと」を指導してきた。ほとんどの子は、語や文のまとまりに注意して読むことができる。しかし、拾い読みのため、文章の意味を捉えることが困難な子ども数名いる。

このような実態から、拾い読みではなく、ひとまとまりの語や文として読むことができるように音読に力を入れていく必要がある。

- 3 単元について

本単元では、「登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しむこと」「くじらぐもと話したいことを考えて書くこと。」を目標にしている。

教材文「くじらぐも」は、子どもたちが大好きな体育の時間に題材を取ったものであることと、身近な現実から幻想の世界へ切り替わるため、楽しんで読める教材である。

また、「子どもたち」と「くじらぐも」の様子やそれぞれの気持ちを読み取るのに、子どもとくじらぐもに分かれて読むなど、声の大きさや速さを工夫することが効果的である。その活動を通し、音読することの楽しさや、物語の世界に入り込んでいくことの楽しさを実感できる教材であると考えられる。

- 4 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、動作化を取り入れながら音読を中心に学習活動を展開していきたい。その際、会話文やくり返しの文をポイントにしながらかんじて活動できるようにしたい。

第1次では、学習意欲をもたせるために、題名や挿絵から気づいたことを話し合い、想像することの楽しさや雲そのものへの興味を引き出していく。そして、全文を通読したあとに、好きな場面やおもしろいところを話し合うことで学びの意欲を高めていきたい。

第2次では、くじらぐもと子どもたちのやりとりから様子を考え、想像を広げられるようにする(レベル1)。そのため、想像したことを交流しながら読みを深めていきたい。また、場面によっては動作化を入れ、物語に浸らせたい。

第3次では、くじらぐもにお手紙を書くことで自分の感想を表現できるようにする(レベル2)。全文を音読し、くじらぐもとの楽しい世界を想起し、自分の思いを手紙という形式でまとめさせる。そして、手紙の内容を交流することで互いの感じ方を学ばせたいと考える。

- 5 学習指導目標

- (1) 関心・意欲・態度

○場面の様子や登場人物の様子を想像し、音読や動作化をして楽しもうとする。

- (2) 能力

◎場面の様子や登場人物の様子を想像したり、声に出して読んだりして物語を楽しむことができ

る。

【読むこと ウ】

◎語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、声に出して読むことができる。

【読むこと エ】

○雲と話したいことを考えて書くことができる。

【書くこと ア】

(3) 言語についての知識・理解・技能

○口の開け方に気をつけてはっきりとした発音で読むことができる。

【言語 ア(ア)】

6 単元重点指導計画 (10時間)

過程	時	指導目標 ・主な学習活動 ※音読活動	評価規準		
			関心・意欲・態度	中心となる能力	言語事項
第1次	1	見通しをもち学習意欲をもたせる。 ・全文を読む。 ・題名や挿絵から気づいたことを話し合う。 ※範読、一斉読み	・くじらぐもと子どもたちの様子を楽しく読もうとしている。(観察・発言) ・面白いと思う場面を進んで見つけようとしている。(サイドライン)	・登場人物や話の筋の大体を読み取っている。(発言) ・話の筋の大体が分かり、面白いと思ったところにサイドラインを引くことができる。(サイドライン・発言)	・ひらがなを正しく読んでいる。(音読)
	2	・全文を音読練習する。 ・分からない言葉、読みにくい語を確かめる。 ・面白いと思う場面を見つける。 ※範読、一斉読み			
第2次	3	1の場面で子どもたちやくじらぐもの出会いを読み取らせる。 ・動作化をし、様子を想像する。 ・ワークシートに想像して考えた事を書き込む。 ※一斉読み、指名読み、かぶせ読み、役割読み、範読	・意欲的に音読練習をしている。 ・意欲的にくじらぐもと子どもたちの様子を讀もうとする。(音読・発表)	・場面の様子や登場人物の様子を想像しながら、読み取ることができる。(音読・発言・ワークシート) ・文のまとまりを理解しながら読むことができる。(音読・発言)	・句読点を意識して、はっきりした発音で読んでいる。(音読)
	4	2の場面で子どもたちやくじらぐもが楽しんでいる様子を読み取らせる。 ・くり返しの文にサイドラインを引く。 ・動作化をし、様子を想像する。 ・ワークシートに想像して考えた事を書き込む。 ※一斉読み、指名読み、役割読み、役割読み			
	5	3の場面で子どもたちが頑張ってくじらぐもに飛び乗ろうとする様子を読み取らせる。 ・会話文にサイドラインを引く。 ・動作化をし、様子を想像する。 ・ワークシートに想像して考えた事を書き込む。 ※一斉読み、指名読み、役割読み、			
レベル1	(本時)				

		部分読み、範読			
	6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">4の場面でくじらぐもに乗っている子どもたちの様子を読み取らせる。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・雲の上からの眺めを想像する。 ・ワークシートに想像して考えた事を書き込む。 <p>※一斉読み、指名読み、役割読み、部分読み、範読</p>			
第3次レベル2	7 8 9 10	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに想像して考えた事を書き込む。 <p>※一斉読み、指名読み、役割読み、部分読み、範読</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">くじらぐもに手紙を書き、想像を広げさせる。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙を書く。 ・交流する。 <p>※役割読み、一斉読み、自由読み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐもに進んで手紙を書いている。(観察) ・友達の発表を聞き、意欲的に質問や感想を述べている。(発言) 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を読んで、自分が思ったことや考えたことをくじらぐもにあてた手紙に書いている。(観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・句読点やかぎを正しく使って文章を書いている。(手紙)

7 本時の指導

(1) 目標

(関心・意欲・態度)

○意欲的に、くじらぐもと子どもたちの様子を読もうとする。

(能力)

◎くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちと、それを応援するくじらぐもの様子を想像しながら読み取ることが出来る。

○文のまとまりを理解しながら読むことができる。

(言語についての知識・理解・技能)

○句読点を意識して、はっきりした発音で読むことができる。

(2) 指導にあたって

前時は子どもたちとくじらぐもの交流を想像しながら読んできた。

本時は子どもたちのくり返しの言葉「天まで届け一・二・三」とくじらぐもの応援「もっとたかく。もっとたかく。」に着目しながら、会話文の読み比べを取り入れ、子どもたちの気持ちの高ぶりや様子、くじらぐもの気持ちや様子をつかませていきたい。

そのために、役割を決めて音読をしたり、動作を入れたりしながらイメージ化させ、読みにつなげていきたい。

(3) 本時における音読活動のねらい

つかむ ・一斉読 →本時の場面をつかませる。

考える ・範読 →聞くことにより内容を理解させる。

・役割読み →重要文を確かめさせる。

深める ・役割読み・指名読み→登場人物の気持ちを想像させる。

まとめ ・役割読み →本時の学習で読み取ったことを音読で表現させる。

(4) 展開

段階	学 習 活 動	
つ	○発問 ・期待される児童の反応 ※音読	・支 援と●評 価 【評価方法】
か	1 前時の想起	・子どもたちとくじらぐもの楽しんでいる様子を想起させる。

む 5 分	<p>2 課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 5px;">くじらぐもと子どもたちのようすをよみとろう。</div> <p>(1) 本時の学習場面を確かめる。 ※一斉読み</p>	<p>●学習場面を正しく捉えている。 ↓ 【発言・観察】 ・一斉読みで学習場面を確認させる。</p>
考 え る	<p>3 課題解決</p> <p>(1) 課題解決の見通しを持つ。 ○どこに気をつけて読めばよいですか。 ・くり返しの文 ・会話文</p> <p>(2) 「天までとどけ一・二・三」と言った時の子どもたちの様子とかじらぐもの様子を考える。 ※範読、役割読み</p>	<p>●くり返しの文、会話文に着目しサ ↓イドラインをひいている。 【教科書・観察】 ・くり返しの言葉を板書し、手がかりとさせる。</p>
10 分 深 め る	<p>(3) 「天までとどけ一・二・三」の変化を音読で表現する。 ○1回目と2回目のジャンプは同じですか。 ・1回目より2回目の方が元気がある。 ・1回目の方が30センチで2回目が50センチだから2回目が高く飛んでいる。 ・くじらぐもを見ながら飛んでいる。</p> <p>○2回目と3回目のジャンプは同じですか。 ・3回目の方がもっと頑張っている。 ・3回目は2回目よりももっと頑張って飛んでいる。</p> <p>○なぜ高く飛ぶことができたのだろう。 ・子どもたちが、一生懸命にジャンプしたから。 ・くじらぐもと一緒に遊びたいから。 ・くじらぐもが子どもたちにきてほしくて応援しているから。 ・くじらぐもが子どもたちと一緒に遊びたいから声をかけている。 ・くじらぐもが1回目より2回目の方が頑張っていて応援しているから。 ※指名読み、役割読み</p> <p>(4) くじらぐもに飛び乗ることができた子どもたちとかじらぐもの様子を読み取る。 ○くじらぐもによろやく乗れた子どもたちと応援したくじらぐもはどんなことを考えたでしょうか。</p>	<p>●くじらぐもに飛び乗ろうとした子どもたちの様子や気持ちを考えている。【発言】 ・板書や発表を手がかりに子どもたちのがんばりに気づかせ、応援してたくじらぐもにも気づかせるようにさせる。 ・1回目・2回目・3回目の子どもの様子の違いをわけを考えさせながら捉えさせる。 ・1回目は30センチ、2回目は50センチなどの本文の表現を実物大の具体物を用いたり動作化させたりすることでイメージさせる。 ・くじらぐももがんばって応援していることに気づかせる。</p> <p>●くじらぐもに飛び乗ろうとしてい ↓る子どもたちを応援しているくじらぐもの様子や気持ちを考える。 【発言】 ・板書を手がかりに子どもたちのがんばりに気づかせ、応援してたくじらぐもにも気づかせるようにさせる。</p>
15 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>具体の評価規準【発表・ワークシート】 A：くじらぐもに飛び乗ることができた子どもたちの様子と、それを応援するくじらぐもの様子を読み取るができる。</p> </div>	

	<p>B：くじらぐもに飛び乗ることができた子どもたちの様子を読み取ることができ ける。 Cへの支援：板書や発言を手がかりにして、くじらぐもが子どもたちを応援し ている様子と子どもたちのがんばりをつかませる。</p>
ま と め る 5 分	<p>4 学習のまとめをする。 (1)子どもたちとくじらぐもになりきって音読 する。 ※役割読み (2)学習の感想を発表する。 (3)次時の学習予定を確認する。</p> <p>・学習を振り返らせる。</p>

(5)板書計画

